

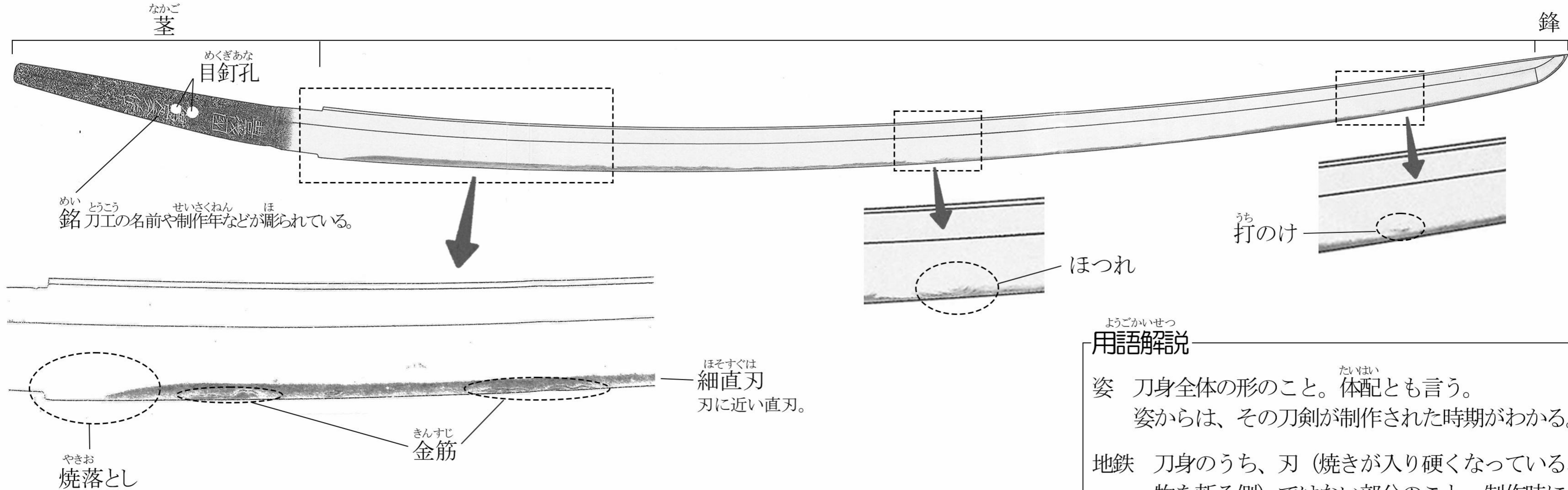
たち めい ぶんごのくに そうじょうしゅう さく
太刀 銘 豊後国僧定秀作

かじょう
刀剣博物館(鈴木嘉定コレクション) 蔵

がくげいいん
学芸員より



こし は かたな わきざし さ からだ そとがわ めん
太刀は「腰に佩く」、刀や脇指は「腰に指す」と言い、身体の外側に来る面が
おもて おもて 表となります。展示の際も佩いた(指した)時と同じになるように、太刀は刃を
した した 下に、刀や脇指などは刃を上(うへ)に展示するのが基本(きほん)です。



ようごかいせつ
用語解説

- 姿 刀身全体の形のこと。体配(たいはい)とも言う。
姿からは、その刀剣が制作された時期がわかる。
- 地鉄 刀身のうち、刃(焼きが入り硬くなっている、物を斬る側)ではない部分のこと。制作時に折り返して鍛錬(たんれん)することによって木目のような模様が浮かび上がっている。
- 刃文 刃と地鉄の間に白く浮かび上がる模様のこと。押形(おしがた: 刀の姿と刃文を写し取った絵)では黒い墨で表される。

見どころ

すがた しのぎづくり いおりむね こしぞり ふんぼ ふ ことさき ゆうび
姿 鎬造、庵棟、腰反りつき踏張りを見せ、先やや伏さり小鋒となる優美な太刀姿。

じがね こいためはだ そう やわ み はだ
地鉄 小板目肌よくつみ、総じて柔らか味のあるねっとりした肌。

はもん もと やきお ほそすぐは ちょう こみだ まじ ところどころ わず うち
刃文 元を焼落とし、細直刃調に小乱れを交えて処々ほつれ、僅かに打のけ・

にじゅうばふう こしもと きんすじ においくち しず
二重刃風かかり、腰元に金筋を見せ、匂口沈みどころとなりうるむ。

めい ざいめいさく きわ きちよう めずら
銘 在銘作は極めて貴重で珍しい。

アンケート実施中

展示やこの資料に関する
ご意見・ご感想をぜひ
お聞かせください。



くろろいろ ひわりもん らでん ざや だいしょう こしらえ
黒蠟色氷割紋螺鈿鞘大小拵

刀剣博物館(鈴木嘉定コレクション) 蔵

黒蠟色 氷割紋螺鈿 鞘 大小拵

くろうるし つや めり
黒漆で艶のある鞘塗

こおり わ もよう
氷が割れたような模様を
螺鈿(貝を使う装飾方法)で表現

している鞘 の大小(刀と脇指のセット)の拵

ふちがしら
縁頭
ざくろ しょうきん
柘榴に小禽(ムクドリ?)

めぬき
目貫
すずめ
雀

こうがい
筭
雀

こじり
鎧
つばめ
燕

大

おりがね
折金
つくし
土筆

小

縁頭
なし しょうきん
梨に小禽(ムクドリ?)

目貫
雀

くりがた
栗形
がん
雁

つば
鐺

おもて
表は木にとまった雀を、裏には貝になりかけたような雀が表されている。

これは、雀が秋になると海辺で騒ぐことから、海に入って蛤になるという古代中国の俗信を表現している。



学芸員から 問題！ この鳥はどこに
いるのでしょうか？

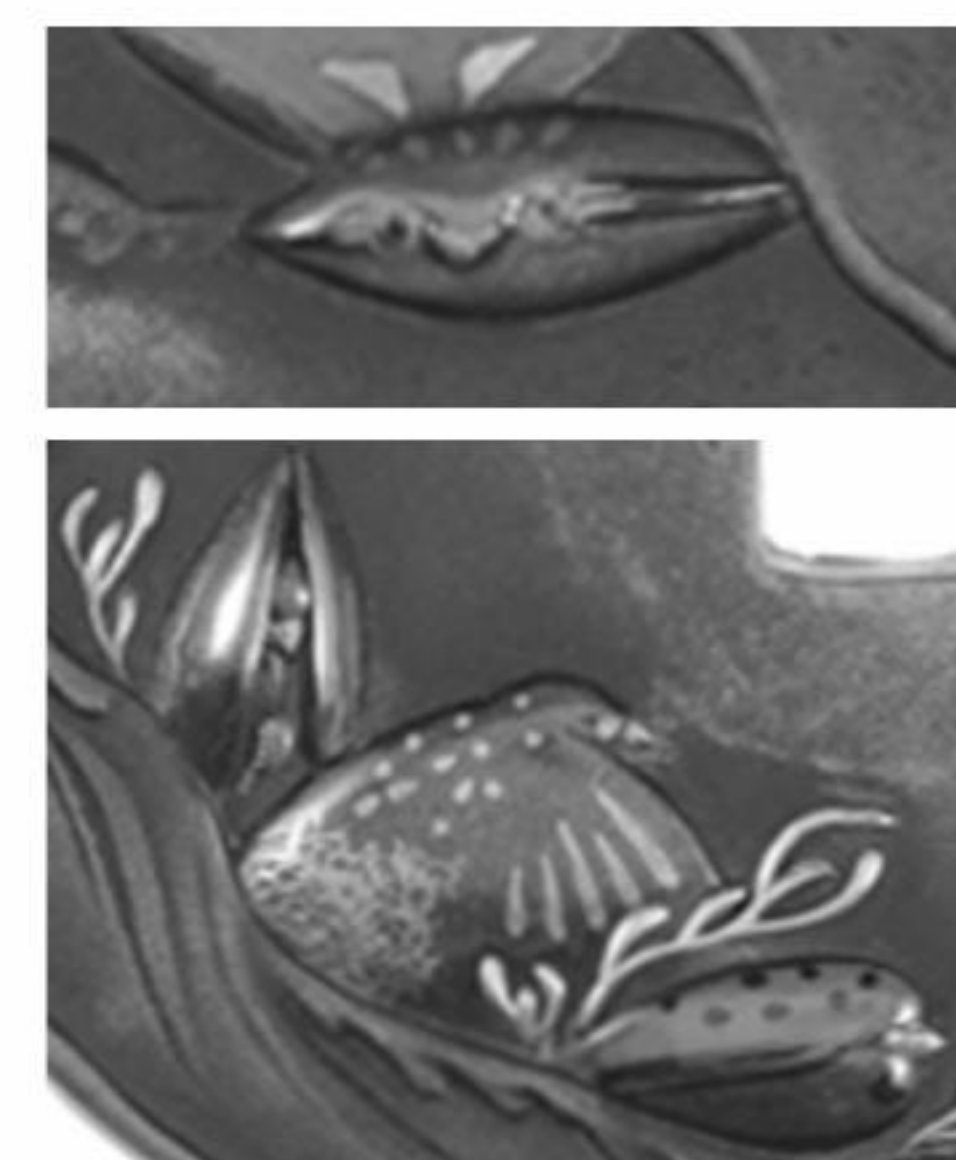
大

小

表⇔裏

大

小



こたえ:大の鐺(だい)のこじり